

世界銅需要予測に基づく日本及び中国の 非鉄金属リサイクルの現状と展望⑤

橋本健一郎氏講演要旨

前回のデータを分析し、日本の銅需要をまとめる。本年の銅地金需要に関しては07年まで続いた世界同時好況による地金、スクラップ輸出とそれに伴う国内スクラップ不足を補うための代替品として銅地金需要は120万トン台まで回復してきた。

だが08年の世界同時不況の影響から製品・商品の輸出が進まず各社10~20%の減産も行われており、再び100万トン台以下まで減少するものと考えられている。

伸銅品に関しても板、条などは自動車販売不振に伴い07年比で約30%の減産が予測される一方、管、棒なども生産拠点の海外シフト、輸入材の調達が進み更なる減少が予測される。そして伸銅品全体では2010年にはマイナス2.1%と予測されているが、更に下踏みマイナス20%まで減少する可能性がある。

以上中国の銅需要、そして日本の銅需要を数値面から分析してきた。これらを含んだ上で2010年までの日中銅スクラップ予想をしていく。

ポイント①

日中両国の予測データを比較してみると日本の銅製品の高機能化は期待できるものの世界同時不

況や輸出の減少からそれが日本の銅需要を押し上げるとは考えにくく、08年度の伸銅品性さんの伸び率も(昨年対比で)約マイナス20%と予想されており09年の日本の銅スクラップ発生量も、少なくとも20%減少する。

ポイント②

一方、中国は2010年までの第11次5カ年計画で「資源節約、循環型経済」を目指すとして約57兆円の景気対策によるインフラ整備による特需で銅地金、NEWスクラップに関しては需要が増加する(5~10%)が、OLDスクラップ需要に関しては横ばいが続き2010年をピークに減少する。

ポイント③

上記の理由から2010年までの日中銅需要予測は中国の57兆円の景気対策によるインフラ整備の特需でNEWスクラップ荷関しては日本から輸出が行われ、若干の国内逼迫感が見受けられるがOLDスクラップに関しては現状横ばい日本国内産業の低迷から帝位安定が予測される。2010年まではスーパーバブル崩壊の火消し期間であり、それ以降の需要は今後の世界経済の動向にかかっている。

(続報)

社会の発展とその未来に
テクノロジーで対応する

KYOWA

地球にも、人にもやさしい
KYOWA のエコ電線

好評発売中

タイシガイセンEM 600V EEF/F

<http://www.kyowadensen.co.jp/>



協和電線工業株式会社

KYOWA ELECTRIC WIRE INDUSTRY CO., LTD.

〒581-0026 八尾市曙町1丁目7番

TEL(0729)91-0818(代)、FAX(0729)91-4470

英：LME、コバルト及び酸化モリブデン 先物取引の導入を延期

業界誌によれば、LMEのコバルト及び酸化モリブデン先物取引契約は、2009年後半に開始される予定であるが、実際には、LMEが新管理システムを2009年10月に導入した後の、2009年末または2010年初めになるとみられている。LMEは2008年9月4日、コバルト及び酸化モリブデン先物取引の導入を承認しているが、その際に決定された条件は、以下のとおりである。

なお、コバルト取引は先週、LMEリング場で初めて行われた。これは、Metal Pages社とLMEが3月3~4日に開催した『コバルト・モリブデン価格&リスク』会議のレセプションがLMEリング場で行われ、そこでLN Metals社及びStratton Metals社が試験的に取引を行い、30トン以上のコバルトが取引された。今回は、初回の歴史的な瞬間と言うことで、LN Metals社は現在の市場価格の最安値である11US\$/lbで販売した。酸化モリブデン及